

健常者と障がい者のスポーツ・レクリエーション活動連携事業：モデル事業
第26回島根県スポーツ・レクリエーション祭：壮年サッカー

- 1 日時 平成26年6月29日（日） 10時～15時30分
- 2 会場 県立サッカー場・自由広場（益田市）
- 3 参加者 参加者約160人（内、障がいがある方15人）
- 4 内容
 (1) 開始式



益田市の山本市長から、選手の皆さんの活躍とチーム同士の交流を深めてくださいとのご挨拶をいただきました。



中四国地区代表として全国障害者スポーツ大会に出場される BSC いずものキャプテンに、出場チームの皆さんから健闘を祈って W 杯ブラジル大会で使用されているボールが贈られました。



8月に開催される INAS サッカー世界選手権2014ブラジル大会に日本代表として出場する安達寛人さんに、参加選手全員から激励金が贈られました。

選手を代表として石原照巳さん(島根県サッカー協会シニア委員長)から本人に手渡されました。

(2) 試合

BSC いずも 1 - 0 松江シニア O-48

BSC いずも 7 - 0 出雲シニア O-48



第1試合の松江シニアとの対戦では、開始当初こそ体の大きさの違いに少々圧倒されていたようで、動きも固かったのですが、時間が進むにつれてふだんのプレイが出てきて、白熱した試合になりました。松江シニアの選手もBSCいずものレベルがどれくらいなのかかわからず手探り状態の中、最初こそ穏やかな雰囲気でしたが、実力伯仲となると接触プレイも激しくなり、手に汗を握る好ゲームでした。

第2試合は、午後2時キックオフで気温も上がり、お互い2試合目ということもあり、若さあふれるBSCいずもの選手と、平均年齢50歳以上の出雲シニアでは体の回復力の差が出てしまい、実力以上に大きな得点差になりました。得点を決めるごとに見せたパフォーマンスはW杯に負けず劣らず誇らしげでした。

平日はそれぞれの地域で活動し、毎週日曜日にみんなで集まって練習している成果が十分に発揮されました。

(3) 参加者のみなさんの声

BSCいずも選手

ボールを止める技術やパスの正確さなど勉強になりました。一緒に試合をしてとても楽しかったです。

50歳を超えてもサッカーを楽しんでおられたのすごいいました。

また一緒に試合をしたいです。

BSCいずも選手の保護者

最初は、体の大きさの違いに戸惑いを感じているようだったので、試合になるかどうか不安だったが、途中からいつもの様子になったので安心しました。

試合相手がなかなか見つからないこともあり、同じような力のチームと試合が出来て本人も、親も喜んでいきます。

松江シニア選手

実力が拮抗していて面白かった。シニア同士のゲームだと一度振り切ったら追いつかれないが、若い選手のスピードと体力には関心をした。

サッカーを愛する者同士、障がいの有無を越えて今後も一緒に活動すべきであると思う。

BSCいずもスタッフ

技術がしっかりしている人とやることで選手の学びがある。今日の試合では、BSCいずもの選手がスピード、シニアの選手がスキルとお互いの良さが出たいいゲームだったように思う。これが継続し、選手の職場の方に見ていただく機会が増えれば、サッカーをする環境もよくなるように思う。

益田シニア選手

益田市部では市リーグでふだんから一緒にやっていることもあり、受入に抵抗はない。せっかくの機会だから、障がいの理解を深めるような取組と一緒に活動するプログラム（アップやトレーニング）などを試合の合間に入れるなど、交流を深めるように工夫すればよかったのではないかな。

出雲シニアの選手

スピードがシニアと違うので試合相手として大丈夫かという心配はあった。同じくらいの（競技）レベルであれば、障がい者と健常者の区別はない。

交流や障がい者理解という観点での事業であれば、若い世代は対戦を重視しがちなので0-48との対戦が効果的かと思う。

山陰中央新報社HPに記事が掲載されています。

URL : <http://www.sanin-chuo.co.jp/news/modules/news/article.php?storyid=546702004>